

特別演奏演奏会

KLEINE HARMONIE ORCHESTER

Romantic English Strings

with Philip Seaton

May

17th (Sat)
Open 18:30
Start 19:00

2025

曳舟文化センター 劇場ホール

Kleine Harmonie Orchester



10代、20代と様々なオーケストラで活躍してきた奏者が、再び【アンサンブル】に立ち返るべく、結成されたオーケストラ。

少数（クライネ）でのアンサンブルを主とした演奏を目指す、という意味を持って「クライネ・ハーモニー・オーケストラ」という名のもと活動しています。1人1人が自身の音に責任を持ち、互いのプレスを感ぜられる環境で音楽を楽しむということを大切にしています。

2019年に結成され、これまでに9回の定期演奏会、群馬特別演奏会並びに弦楽演奏会や都外での依頼演奏など、精力的に活動しております。これまでにソリストとして、飯頭(Va.) [弦楽演奏会・第6回・第9回]/ 大沢里紗(Pf.) [第3回定期演奏会]/ 大木翔太(Vc.) [第5回定期演奏会]/ 尾張拓登(Vn.) [第4回・6回定期演奏会]/ 大森雅弘(Cl.) [第7回・9回定期演奏会]/ 榎かぐや(Ob.) [群馬特別演奏会]/ 上村文乃(Vc.) [第8回定期演奏会]等と共演。

業界では少しニッチでマイナーなプログラムも積極的に取り扱い、いずれもご好評いただいております。

幕間・休憩中に、KHO公式YouTubeチャンネルもお楽しみください。

本日の演奏会も後日アップロード予定です。

チャンネル登録をしてお待ちください。

ソリスト・作曲家からのメッセージも併せてご覧ください。



クライネチャンネル【Kleine Harmonie Orchester】

@kleineharmonieorchester7270 · チャンネル登録者数 1580人 · 112本の動画

10代、20代と学生・アマチュアオーケストラそしてプロオーケストラで活躍して...さらに表示

登録済み



ソリストインタビュー 高宮城 凌・清水 里彩子 (東京シティ・フィルハーモニック管...



作曲家より ご来場のお客様へ (シンフォニア・コンチェルトンテ作曲 フィリップ・シ...



作曲家：フィリップ・シートン

1972年 英国グラスゴー市生まれ。ロンドンで育ち。

1994年 ケンブリッジ大学歴史学部を卒業し、英語教師として初来日。

2004年 サセックス大学大学院博士課程（メディア文化学）を修了。

長岡技術科学大学、北海道大学の勤務を経て、現職東京外国語大学国際日本学研究院教授。

小さい頃からバイオリンとピアノを学び、17歳に作曲家としてデビュー。

2003年 地元ミル・ヒル音楽祭（ロンドン）の依頼曲の初演。

2018年 デビューアルバム「チェンバーワークス」（HD Impression）をリリース

2021年と2023年 調布国際音楽祭にて新作の発表

2023年 彩三重奏の1stアルバム「トリオ・コンチェルトンテ」（Exton）でメジャー・レーベル・デビュー



司会：naco

登録者28万人を超えるYouTubeチャンネル『厳選クラシックちゃんねる』でクラシック音楽を紹介するYouTuber。

ヤマハ音楽教室ジュニア専門コースでピアノとエレクトーンの奏法を学ぶ。9歳からは作曲も開始。12歳からは合唱、18歳からは合唱に加え、リート、カンツォーネなどの声楽を学ぶ。

2020年4月より、社員として勤務する傍ら、YouTube『厳選クラシックちゃんねる』を開設し、日本最大級のクラシック音楽解説チャンネルに成長させる。クラシック音楽の作曲家や楽曲・音楽史の解説、アーティストインタビューなどを行うほか、現在はYouTubeでの発信に加え、クラシックコンサートの企画・主催、MC出演や、TV・ラジオ番組への出演など、活動の幅を広げている。



厳選クラシックちゃんねる / Classical Music Guide ◦

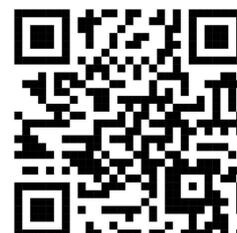
@nacoclassic ・チャンネル登録者数 28.7万人 ・281本の動画

『クラシックを、もっと身近に。』 ...さらに表示

youtube.com/channel/UCgH0F8uXg0eEi55acY8GzFw、他3件のリンク

登録済み

メンバー特典



イギリス音楽を聴こう！エルガー《威風堂々》ホルスト《惑星》and more...

団長：飯 顕

1987年、東京生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。

私立桐朋学園女子高等学校音楽科（男女共学）を経て、桐朋学園大学音楽学部に入學。大学4年次にヴィオラに転向後卒業し、同大学研究科を修了。

クラシックだけに留まらず、ポップス、ロック、和太鼓とのコラボレーションなど、多彩な活動を展開している。これまでにモーツァルテウム音楽院での夏期セミナー、草津国際アカデミー、桐朋学園富山室内楽特別講座、ハイリゲンベルグ国際アカデミー、サイトウ・キネン若い人のための室内楽勉強会、プロジェクトQ第4章～第6章、小澤征爾オーケストラ・プロジェクトI等に参加。

今までにヴァイオリンを波多野せい、石井志都子の両氏に、ヴィオラを故・江戸純子、小林秀子、店村眞積の各氏に、室内楽を原田幸一郎、ギンター・ビヒラー、今井信子、毛利伯朗、原田禎夫、東京クワルテットの各氏に師事。



正指揮者：佐藤 有斗

1990年群馬県前橋市生まれ。

群馬県立前橋高等学校卒業。

獨協大学外国語学部英語学科首席卒業。

武蔵野音楽大学別科指揮コース 修了。

高校入学と同時にコントラバスをはじめ、矢吹けさみ、徳島大蔵、菅野明彦の各氏に師事。

大学在学中に獨協大学管弦楽団の学生指揮者として楽団の定期演奏会を指揮。指揮を西脇秀治、大澤健一、水戸博之、高井優希、Luis Miguel Clementeの各氏に師事。

2018年ダグラス・ポストック氏による東京指揮マスタークラスを受講・修了。

2022年ポルトガル・ポルトにて開催されたVI Atlantic Coast International Conducting Masterclass & Competitionで一位優勝。



ソリスト：高宮城 凌(たかみやぎ りょう)

桐朋学園大学音楽学部卒業。同大学卒業演奏会、室内楽演奏会などに出演。

第56.60回全日本学生音楽コンクール福岡大会 第1位。いしかわミュージックアカデミー2008にてIMA音楽賞を受賞。第15回おきでんシュガーホール新人演奏会オーディションにてグランプリを受賞。第12回東京音楽コンクール入選。

これまでに、マルメ交響楽団、琉球交響楽団、群馬交響楽団と共演。

プロジェクトQ第10章、サントリーホール室内楽アカデミー(第3期)などで室内楽の研鑽を積み、現在ではクアルテット・ソレイユの第1ヴァイオリン奏者を務めるなど、弦楽四重奏の活動も積極的に行っている。

九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、シアターオーケストラトウキョウなど日本各地のオーケストラにコンサートマスター、首席奏者として客演。

ヴァイオリンを屋比久潤、原田幸一郎、神谷美千子の各氏に師事

ソリスト：清水 里彩子

東京藝術大学卒業。

大学在学中に東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団に入団。現在、2ndヴァイオリン奏者として在籍する傍ら、国内各地のオーケストラに首席、フォアシューパー等で客演。

第5回彩の国String Competition最優秀賞。第24回みえ音楽コンクール第1位、併せて三重県知事賞を受賞。第38回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会第1位。飛騨河合音楽コンクール第3位（弦楽器最高位）。

学内成績優秀者として、第46回藝大室内楽定期、東京音楽学校旧奏楽堂日曜特別コンサートに選抜され出演。フィリアホール室内楽アカデミア第3期生。ウェールズ弦楽四重奏団によるウェールズ・アカデミー第1期生。Quartet Abeliaのメンバーとして活動中。

これまでにヴァイオリンを野上紘子、水野佐知

香、野口千代光、徳永二男、篠崎史紀の各氏に師事。



© Ayane Shindo

G.ホルスト

ブルック・グリーン組曲 H. 190

ブルック・グリーン組曲は、1933年にセント・ポール女学校オーケストラのために弦楽合奏用の3つの小品構成で書いた作品です。

っあ、気が付きましたか?あの有名な弦楽合奏曲セント・ポール組曲と同じ学校です。セント・ポール女学校は、ホルストが教員として勤めていた学校で、セント・ポール組曲は1912年に防音装置を備えた専用の部屋を与えられたことに対する謝意を表して作曲されたものです。

さて、ブルック・グリーン組曲はというと、彼が死ぬ前年に入院中、若いプレイヤーにシンプルなオーケストレーションを演奏を通じて学べるように十分かつ簡単な作品を残すために作曲されました。そのため、初級クラスの方でも十分に演奏が楽しめる作品となっています。第2楽章「Air (エア)」では、イギリスの民謡の独特な和声を使用し、牧歌的な雰囲気味わえます。

教育者であり作曲者であるホルスト、本日のメインでもあるシンフォニア・コンチェルタンテの作曲者 フィリップ・シートンさんに似ていますね。

E. エルガー

弦楽セレナーデ ホ短調 Op. 20

2曲目はエルガー先生作曲の弦楽セレナーデです。有名な曲なので、曲紹介なんぞ不要かと思いますが少し書きます。1892年ごろのエルガーは、地元でアマチュア相手にピアノやヴァイオリンを教えたり、指揮者を務めたりしていたそうです。1888年にウスターのアマチュア団体を指揮して「弦楽合奏のための3つの小品」("Three pieces for string orchestra")を初演しており、これが改作されて本作になったものと推測されています。

作品が「セレナーデ」として完成したのは1892年5月であり、友人のW・H・ウィンフィールドに献呈されたが、妻キャロライン・アリスに、3回目の結婚記念日のプレゼントとして贈られた。エルガーと言えば愛妻家というように業界では有名ですが、実は近年の研究では色々出てきているようです。が、それでも大きく彼のイメージが変わらないのは、それ以上に強い誠実さ、友情、そして愛情が汲み取れるからかもしれません。

初演は、第2楽章のみが1893年4月7日にヘリフォードで行われ、全曲の初演は1896年7月23日にベルギーのアントウェルペンで、ロンドン初演はエルガー自身の指揮によりベヒシュタイン・ホールで行われたそうです。

R. ヴォーン・ウィリアムズ

「富める人とラザロ」による5つの異版

まず皆さん、ヴォーン・ウィリアムズって知っていますか?? 吹奏楽経験者であれば、イギリス民謡組曲とか、グリーンズリーヴズ幻想曲などで知っている方もいらっしゃるかと思います。日本ではいまいち知名度が低いように感じるヴォーン・ウィリアムズですが、本国ではホルストやエルガー、ウォルトンやブリテンに勝る知名度と尊敬を持つ大作曲家でございます。

ヴォーン・ウィリアムズは1872年生まれで、王立音楽大学とケンブリッジ大学(シートンさんの先輩です。すごい繋がり)に学び、その後はラヴェルやブルッフと大作曲家に師事し、1958年 85歳でこの世を去りました。

作風はイギリス民謡をテーマとした作品が多く、これは同年代で彼の親友であったホルストとも通じるところがある。

さて、本日一部の最後に演奏する「富める人とラザロ」による5つの異版ですが、こちら前所述的通り彼の大好きなイギリス民謡「富める人とラザロ」(Dives and Lazarus)の5つのヴァリエーションをつなげた作品となっています。

ちなみに、「富める人とラザロ」とは、新約聖書「ルカによる福音書」第16章第19節以降に登場する、イエス・キリストが語ったたとえ話である。貧しい病人のラザロに対し同情心を持たなかった、ある金持ちの死後の世界での末路について語られている。そして名誉と富に執着し、憐れみの心、即ち貧しい人々や弱い人々を愛する心を失うことの危険性を警告している。そして、その警告はまたいつでも悔い改めへの招きの言葉でもあった。(Wikipediaより)

P. シートン

シンフォニア・コンチェルタンテ Op. 19 (2023)

2000年に、新潟県長岡市に住んでいました。仕事、作曲、バイオリン演奏活動を一所懸命にやっていた、ある日に腕に強い痛みを感じました。医師からは、完全に休むよう指示されました。症状は軽快したものの、結局、バイオリン奏者としての活動には、終止符を打たざるを得ませんでした。

ある側面においては、「シンフォニア・コンチェルタンテ」は、モーツァルトの同名の作品に倣った古典的な様式・構造と、ヴォーン・ウィリアムズ、エルガー、ホルストなどによる、イギリスのロマン派弦楽曲の様式を持つ、バイオリンのための二重協奏曲として聴くことができます。しかし、別の側面としては、私のバイオリン奏者としての人生に終止符を打った出来事が、この曲の背景にはあります。

第1楽章は、遥かなる日本アルプスを思わせるモデラートで始まります。弦楽器による下降音型は信濃川の流れを表現しています。信濃川が長岡に達すると、オーケストラのチューニングが聞こえてきます。

アレグロ部は、弦楽器による静かな伴奏の上で奏でられるホ短調のバイオリンの旋律で始まります。これは、メンデルスゾーンバイオリン協奏曲へのオマージュです。この曲によって、私は10代の頃、バイオリンとクラシック音楽に目覚めました。第2主題は「バンベルク」（ドイツの都市）を指すB-A（Minim<二分音符>）-B-E（Repeated<繰り返し>）-Gというライトモチーフを中心に構成されています。私が長岡交響楽団に在籍していた際、最も思い出深かったのは、バンベルクと長岡市交流の一環として、1999年4月にドイツで2回開催されたコンサートでした。

最初の主題に戻る直前、すべてが順調なわけではないことを示唆する不吉な兆候が現れます。ピチカートとコル・レーニョを組み合わせた管弦楽のTutti（腕の痛みを表す）が、カデンツァへと続いていきます。カデンツァの間に、打ちひしがれた気持ちは、作曲という新たな一歩を踏み出す決意に置き換わります。

中間楽章のアダージョは、シンプルなA-B-A形式をとっています。第1部は、バイオリンを終えざるを得なかった孤独な存在を想起させます。より陽気な中間部では、私が書いた作品のコンサートの日付が、旋律に隠されています。この楽章は、私が自分で演奏することが叶わなくなって以来、私の作品を演奏して下さったすべての音楽家への心からの感謝を表現しています。

最終楽章のアレグロは、緩やかなソナタ形式であり、その後に長いコーダが続きます。この楽章は、衰弱を表すシンクペーションのモチーフを中心に構成されています。このモチーフは、「シンフォニア・コンチェルタンテ」の他の多くのモチーフと同様、様々な形とテンポで繰り返し現れますが、特に展開部では、ホルンの伸びやかなソロとして、かなりゆっくりなテンポで登場します。

アレグロが自然な終わりを迎えると、オーケストラはフェードアウトし、伸びやかなコーダが始まります。曲の大部分が短調で書かれた「シンフォニア・コンチェルタンテ」は、最後は力強いハ長調で終わりを迎えます。バイオリンを弾いていた日々には縋りつくようなことを私はしません。究極的には「シンフォニア・コンチェルタンテ」は、作曲を通して、私がいかにしてこの試練を乗り越え、新たな光を見出したのかを表現した作品なのです。

フィリップ・シートン、5月、東京

フィリップ・シートンのWebサイトはこちら
<https://music.philipseaton.net/>



11月1日シンフォニア・コンチェルタンテ再演
詳細はこちら
<https://music.philipseaton.net/>



Kleine Harmonie Orchester

Conductor

佐藤 有斗

Soloist

高宮城 凌 / 清水 里彩子

Concertmaster

成原 奏

1st Violin

中津留 果己
菊池 晶子
渡邊 拓真
安野 晋平

Oboe

大隈 淳幾
山根 優季

Horn

2nd Violin

渡邊 田鶴野
西野 絢賀
調 雅子
田邊 美里
神尾 玲

藤野 千鶴
菊地 力也

Harp.

操 美穂子

Stage Manager

Viola

飯 顕
仁科 友希
柴田 春音
緑川 かなこ

吉澤 幸也

Navigator

Cello

今泉 晃一
岡本 梨沙子
佐藤 響
井上 聖太

厳選クラシックちゃんねる naco

Video Director

菊地 博章

Contrabass

白尾 祐典
山下 祐矢

Gerald Finzi

はい、僕らも9回も定期演奏会をやれば気付いているんです。やはりお客様がなかなか増えないなって…

KHOはプロ集団なので、もちろん参加して下さる団員さんにギャランティが発生しますし、メンバーもお仕事としてしっかりと役割を果たしてくれます。。なかなかお金が貯まらなくて、第10回ができないのです。第10回の構想は4年前くらいからできているのですが、資金面が問題で…

なので、我々にできることは演奏会をするだけなんです。

でもKHOだからプログラムは、やはり少し?尖っちゃう…

今回は?、次回もイギリスの作曲家(意図はしてないのですが) ジェラルド・フィンジを取り上げます。

そして何とフィンジのClarinetソロ曲、両方やっちゃいます。(そんな演奏会聞いたことない…)

-Concerto for Clarinet Op. 31

-Five Bagatelles for clarinet

ソリストはKHOおなじみの大森 雅弘さん、そして今回は篠塚 友里江さんをお迎えします。

その他にはRomance for String Orchestra Op. 11も取り上げます。

来年だからまだ予定入ってないですよね? 来てくれますよね? お待ちしております!!

そろそろ第10回定期演奏会やりたいの為の演奏会(仮)

Kleine Harmonie Orchester

2026年3月21日(土) 19時開演予定

豊洲文化センター ホール

本日の演奏会、いかがでしたでしょうか?

もし今後ともKHOの活動にご賛同、ご協力いただける方は、

Teketのコメントより応援のほどよろしくお願いたします!!



Teketはこちらから

応援コメント (23)



イベント前でも後でも
主催者にコメントやギフトを贈って
一緒にこのイベントを盛り上げよう!



事務局 (中の人) 様の投稿として表示されます。ニックネームを設定する



コメントを投稿

📺 ギフトを贈る